

# 北海之光

## 10月号 北海道教区報

祝福されよ 主に信頼する人は

エレミヤ書 17章 7節

発行所 北海の光社

001-0015 札幌市北区北15条西5丁目1-12

日本聖公会北海道教区事務所

電話 011-717-8181

FAX 011-736-8377

E-mail:hikari@nshk-hokkaido.jp

http://www.nshk-hokkaido.jp

発行人 植松 誠

### 三十三個目の石

苦小牧聖ルカ教会牧師  
室蘭聖マタイ教会管理牧師  
司祭 グレゴリー 松井新世

近年、わたしにとって、九月、一〇月は特別の月となりました。九月は相棒ポール、一〇月は父の逝去を悼む時なのです。道の傍で泣きじゃくる子も、うずくまる猫にも、何だか胸痛くなるこの頃なのです。

過日、九月二日は、ニューヨーク同時多発テロから二〇年目の日でした。

九・一一や三・一一(東日本大震災)、八・一五(終戦記念日)は、ある意味「メモリアル・デー」として忘れられない、忘れてはならない出来事だと思えます。もちろん、人それぞれ、他に加えられる時はあるのでしょうか。

誰彼の中で到底理解不能な出来事があり、そこで神の存在を問いたです叫びが挙がっていても不思議なことではありません。

二〇〇七年四月一六日、米

国のバージニア工科大学で、学生による銃乱射事件が起きました。三二人もの学生・教員が命を失いました。乱射した学生はその場で自殺しました。この事件で驚くことは、当地の学生の言葉「もし他の学生たちも銃を持っていたらならば、これほど大量に学生が犠牲にならなくてすんだらうに」との声に、銃社会アメリカの暗部を見たのです。

この事件の次の週、被害者の追悼集会在学内で行われ、そこには死亡した学生の数と同じ三十三個の石が置かれていたそうです。被害学生は三二人で、「三十三個目の石」は、事件直後に自殺した犯人のために置かれたということなのです。

そしてこの時の追悼集會に参加した一学生の言葉が「犯人の家族も、他の家族達と全く同じ位深く苦しんでいるの

です」というものでした。殺害した犯人も、その家族も、この狂乱した現代社会の被害者であるということです。

以上の出来事を紹介する森岡正博氏は『三十三個目の石』の中で、この「三十三個目の石」を「我々の社会は許容するだろうか」と現代社会に問題提起するのです。

もちろん、三二人もの命を亡き者とした責任は重く、消えることはありません。しかし同時に、この出来事は「ゆるし」と共に、「死者の尊厳」を問いかけているのです。それでも尚、「神はどこに」との声が聞こえてきます。

原始キリスト教会の中には、イエスの十字架上の絶叫が残した問いに対して、一つの答えを出したそうです。それは、神は「向こう側」に客体として存在するのではなく、「こちら側」において、苦しむ者と一体化しているというのです。

この辺のことを、神学者のモルトマンは「死が神自身にまで達した」(『十字架につけられた神』とまとめています。

どのような状況にあらうとも、それがたとえ「死」という悲惨の只中であつたとしても、神は苦しむ者と共におられるというのです。

路上に積み上げられた三十三個目の石は、その上でわたしに問いかけます。「あなたはゆるし難き者をゆるせるのか」と。

この出来事の希望の石は、その三十三個目の石は繰り返して持ち去られたものの、一方で同じく、その後も繰り返して一つの石を置いていた誰かがいたという後日談です。

人は、絶望の果てにあつても、それでも尚、希望の糸を、紡ごうとする誰かの存在があることを教えているような気がするのです。

叶わぬとは思いつつも、あの日、あの時、彼が、我が震える背中を擦る誰かがいたならば、と想像するのです。逡巡してばかりの心も、くぐもり続ける思いも。一つの居場所を見つけられるのではないかと。信じていたのです。「大丈夫」という母なる港を。



心の窓をひらくー  
福音と私(二五二)

今、なぜ、私はキリスト者として生きるのかー

平取聖公会信徒

リベカ 柳 原 美 樹

私の好きな聖句

「光の子らしく歩きなさい。」

エペソの信徒への手紙五章八節

私は今、バチラー保育園の主任保育士として、今年勤続三一年目を迎え、働いています。バチラー保育園と平取聖公会との出会いは、物心がつく頃からでした。バチラー保育園には、年長の一年だけでしたがお世話になり、担任の先生が大友美奈子先生で、園長先生が大友正幸司祭でした。その頃から、平取聖公会にも、自分の意志からではなく、祖母に連れられ、毎週日曜日には、教会に行くものと習慣化していました。

私は、左利きです。今の時代なら、ハサミに包丁と、左利き用が売られています。私の幼少時代には、そんなものなど無く、右利きが主流で、ほとんど強制的に左から右へと、直させられたものです。私もそんな中の一人でした。箸を右手に持たされ、食べる事の練習は、目を追う事に恐怖に変わり、顔からは笑顔を消え、それまで普通に話せていた言葉でさえも「ごっこつかい」をするまでになつてゆきました。そんな私を心配し右利きへの練習は、ストップされ、右手を少しでも使えるようにと、オルガンを習う事になったのです。その時、先生として教えてくださったのが、信徒である山崎喜一郎さんの娘さんで、当時バチラー保育園で保育さんをしてた喜美恵さんです。結婚して、この地を離れるまで教えて頂きました。その後数年ピアノからも離れていま

たが、次に信徒の佐久間満子先生が、母と仲が良かった事もあり、私を引き受けてくれ、次の先生となり、再びピアノを習う事が出来たのでした。そんな中、寺本睦夫司祭の奥様から「美樹ちゃん、せっかくピアノも習ってるんだし、保育さんになつてバチラーで働いたら…」の様な事を言われました。奥様覚えていますか？

冒頭の聖句は一〇歳の時に平取聖公会宣教百年に合わせて、渡辺政直主教様より、洗礼を受けた際、寺本司祭より頂いた古今聖歌集の中に書かれていたものです。初めて触れた聖句と言つても過言ではありません。自分が通う教会へ毎週のように連れて行ってくれた、祖母サラ清川なみは、ジョン・バチラー先生の教えを受けた伝道師清川成七の娘でした。大病を克服しながらも元気であった祖母は、一九九六年四月、老衰の為に神様の元へ逝きました。八七歳でした。葬送の儀は、江口博司祭、斉藤昭一司祭、小貫雅夫司祭、寺本司祭、大友司

祭に執り行つて頂きました。父、栄は仏教徒で、私達が教会に通う事に文句を言う人ではなかったですが、教会に行こうとはしませんでした。晩年になると、少しずつ礼拝に参加するようになっていきました。「仏教もキリスト教も神様なんだから一緒だ！」と言っていました。そんな父も二〇一四年七月、七〇歳で、植松誠主教様、大友司祭、内海信武司祭による葬儀で、天に召されていきました。父は洗礼を受けていなかったのですが、マリヤ青子の夫という事で、特別にヨセフの教名を頂く事が出来ました。生前母は、小学五年生まで祖父成七から、神様の教え、生きてゆく知恵等を教えてもらつたんだと、私に話してくれました。そして母も父の後を追うかの様に、二〇一八年六月、植松主教様、大友司祭、内海信武司祭による葬儀で、七一歳で天国へと旅立っていきました。今年父が逝去して七年、母が三年を迎えました。今でも時々、家の中で二人の声や、気配を感じ取る事が出来ま

す。きつと仲良しの二人が、いつまでも私の事を、見守ってくれているのでしょうか。両親の介護も終わり、ここ数年、ようやく毎週のように教会に通う事が、出来るようになりました。つたない演奏ですが、なるべく月二回は、ご奉仕が出来るようにと頑張っています。今秋一〇月一日〜十一月二十八日まで「英国聖公会宣教師ジョン・バチラーの足あとー伝道活動とアイヌ文化研究」と題して、第二七回特別展が、平取町立二風谷アイヌ文化博物館で開催されます。そこには、私からすると、ひいじいちゃんにあたる伝道師清川成七と夫人が笑いあっている写真と、バチラー先生による成七の聖婚式証明証が展示される予定です。これらは、我が家にあつた物で、皆に観て頂こうと思ひ提供しました。現在の平取聖公会での礼拝の様子や、「主我を愛す」をアイヌ語で歌う様子等が放映される予定です。皆さんも機会があれば、是非、観に来て下さい。主に感謝。

### 常置委員会報告

第一一回 九月一三日

#### 《協議事項》

- 一、臨時教区会に関する件
- ・十一月三日(水・祝)、主教選挙の臨時教区会を開催す

ることとした。会場は、主教座聖堂札幌キリスト教会。

- ・主教選挙に関する事前学習会を聖職議員は、九月二三日に行う。信徒代議員は一〇月四日に行う。
- 二、第八一(定期)教区会に



## 主教室よい

をお手伝いに来ていたのです。

もちろんこのゲーム

「天城主教が、クリスマスに、エベレストの頂上で、植松司祭と、ダンスをした」。そこにいた人たちの大笑い。私は圧倒されていたと言っよりも、ながば呆れていました。これは二六年前、札幌キリスト教会のクリスマス祝会でのこと。「だれが」、「いつ」、「どこで」、「だれと」、「何をしたら」を皆が書いて、バラバラにしたものを、適当に拾い上げて文章にする…。そう、あのゲーム。司会の須田明夫先生が声高に読み上げるたびに、皆、どおつと大笑い。私はこの時、管区事務所総主事として、札幌キリスト教会(まだ古い建物)のクリスマス礼拝

ムは知っていました。でも、それは私の子どもころのゲームで、たぶん大阪や東京でこのゲームをまだやっている教会はなかったと思います。「えっ、まだこんなゲームやっているの?」「(こめんなさい!)」と。でも、そこに集まった老若男女の楽しそうな顔を見ていて、私は何かとつても深くて温かいもの、私の心を優しく包む安らぎを覚ええました。大都会には見られない単純素朴さ。

そして、その感動の中にいる私に最後のとどめをさせたのが、祝会の終わり。主の祈り、祝いのあとの「さようなら、みなさま、静かにして、イエスさまとともに

関する件

- ・十一月二三日(月)〜二三日(火・祝)に開催することとした。
- 三、教区事務所体制に関する件
- ・教区事務所の将来的な体制

に、「帰りましょう」の斉唱。

これも私には懐かしい聖歌。でも、子どもるとき日曜学校で歌って以来、歌うことはありませんでした。

2節目の「この日の教えを忘れないで、さようなら、みなさま、このつぎまで」「さようなら」で深く頭を下げて神様と周りの人への挨拶。「いやあ、まいった、まいった」。何という単純素朴さ。

これまでの二五年間、「さようなら、みなさま」を歌い、二節目の「さようなら」で頭を下げる私。今日まで、私は感動しっぱなしなのです。

主教 ナタナエル 植松 誠

の整備について協議した。

- 四、バチラー保育園園舎改築に関する件
- ・高橋久美子園長、内海チャレンより、進捗状況の説明を受けた。
- 五、新型コロナウイルス対応に関する件
- ・一〇月も九月同様の対応を各教会、信徒に求める事とした。
- 六、主教会開催に関する件
- ・一〇月二二日(火)〜一四日(木)開催。北海道教区がホストとなる事への対応について協議した。

### 堅信式受領 おめでとう

有珠聖公会

エルピス 熊澤 隆史  
アイリーン 熊澤 君子  
九月二六日

### 十 教区逝去教役者 記念聖餐式

十一月一日(水)  
午前一〇時三〇分

於 主教座聖堂

次の方々を覚えて祈ります。  
司祭 J・ウイリアムス  
一九二〇年十一月一日

主教 W・アンデレス

一九三二年十一月一日

主教 前川 真二郎

一九五三年十一月一日

伝道師 A・M・エバンス

一九五一年十一月二日

執事 町田 巖

一九九七年十一月三日

執事 中西 弘

一九八九年十一月七日

伝道師 鈴木 雅彦

一九二三年十一月二日

伝道師 松本 ジョウ

一九七八年十一月四日

伝道師 ルーシー・ペイン

一九三二年十一月七日

伝道師 西田 喜一

一九六一年十一月八日

伝道師 M・ブラウンロー

一九二二年十一月九日

伝道師 渡辺 誠

一九四八年十一月九日

主教 G・J・ウォルシュ

一九七二年十一月九日

司祭 雨宮 大朔

二〇一五年十一月九日

執事 富田 恒躬

一九四〇年十一月二日

司祭 鈴木 善四郎

一九一八年十一月二六日

伝道師 A・M・タブソン

一九四〇年十一月二六日

主教選挙にあたって2

## 「新主教に期待すること」

九月二三日、現任の教役者たちは、主教選挙を前にして学習の機会を持ちました。最初に法規が定める主教選挙の要領についての学びをした後、私たちが新主教に期待する事について分かち合いの時を持ちました。以下の文集は、

①植松主教の在任期間から今後に引き継いでいきたいこと。②今後の教区の宣教・牧会について新主教に期待すること、新主教と共に取り組んで行きたい課題について、各自発表した内容を、順不同で掲載したものです。

●教役者とその家族とじっくり話をする機会を年に一度設定してほしい。牧会上のこと、家族のことなどを話す。また、理事長でもあるので幼稚園や保育園なども同様に園長と主任や長く勤めている職員など、年に一度の施設職員研修会だけではなく、話をする機会がもつとあると「施設が宣教の現場」であることが実感されるのではないかと思います。

●新旧主教同士の引き継ぎで確認されること以上に引き継ぎを望むことはありません。植松主教が二五年間の教区の中で積み重ねてこられた働きを新主教にただ受け継ぐことを求めるよりも、共に歩んできた教役者、信徒たちがいるその場を見ていただき、その声を聞いて、そこに必要な信仰の糧を、用意くださることを願います。

●新主教を迎えることで信徒・教役者がさらに明るい気持ちで希望やビジョンを共有して宣教・牧会に遣わされたいと願うとともに、これまでの年に二回の主教巡回や教役者会、修養会などでの信徒・教役者との近くて親しい交わりが継続され、霊的指導、聖職養成、教区的課題への取り組みがよりなされるよう、新主教とともに奉仕職を担わせていただきたいです。

●「近くに主教がいて当たり前前の聖公会」の時代は終わってしまった。そんな中、主教

選挙を行う決断をしたこと自体が感謝であり、それ以上望むことはあまりない。敢えて言えば、新しい主教様は飾り気のない普通の人であって欲しい。幼稚園、保育園を大切に、植松主教様のように信徒、教役者に寄り添って下さること、それに尽きる。

●聖霊の導きにより選ばれる新主教は、「霊の人」であると共に、「地の人」でもあって欲しい。ひたすらにサクラメントの命を生き、多くの友との分かち合いを通してその先を示す方を希望します。一方で、この世の不条理に身を置き、弱さや貧しさのある周縁に向き、心寄せる、寛容でユーモアある心の持ち主であることも望みます。

●教区の主教は、一人一人の信徒に温かいまなざしを向けおられ、関心を持ちそして祈っていて下さる存在。主教の関心は全信徒に向けられます。二五年前、植松主教様は大きな喜びの内にこの教区に迎えられました。感謝しつつ、また新たな喜びを迎えることに期待しています。そして教

会の働き人がバラエティー豊かになることを願っています。

●今後に引き継ぎたいこと  
①年二回の主教巡回礼拝。  
②教区礼拝・修養会を極力行う。  
③主教・司祭のオンラインメッセージ。

●新主教への期待・取組  
①複数による協働牧会。  
②現状の把握・相談。  
③霊的指導者・精神的支柱として主教邸にいる機会を多くしていただきたい。

●植松主教から今後に引き継いで欲しいこととして、教区主教の年二度の巡回を希望します。地方に来て感じることは、札幌やその近郊に住む信徒の方が地方に住む信徒よりも主教により親しみを感じているという点にあります。その差が解消されることを願っています。その方法は思い浮かびませんが、主教をもっと身近に感じて欲しいと思います。

●コロナ禍においても公祷を重んじ、公会のいのち「聖餐」を第一にする姿勢。小さき者、

障碍のある方々と共にある姿勢。アジアの聖公会として、戦争責任に立脚した和解・平和の宣教。東北教区との協働の具体化。北海道教区としてローカルな宣教課題の継続。

●グローバルな視野(人権や平和・教区再編など全聖公会的課題)と共に、信徒の具体的な信仰生活に密着したローカルできめ細かい牧会(巡回など)を両立してくださる方。聖職養成や信徒使徒職、チームミニストリー(協働牧会・宣教)など今後私たちが直面する諸課題を明確にし、聖職と信徒を霊的に励ましつつ共に取り組んで下さる方。

●植松主教様は、「福音を生きる」とはいかなることであるかを、ご自身の言葉と行いを通して繰り返し示し、北海道教区のすべての者を養育してくださったと思います。新主教様には、信徒には聖書の使信を理解するための学びの機会を充実して下さること、聖職には各自の希望に合わせた研修の機会を与えてくださることを期待します。

# 二〇二二年日本聖公会人権セミナーを終えて

人権セミナー実行委員長

司祭 ノア 上平 更

昨年、新型コロナウイルス感染症による世界規模のパンデミックに見舞われ、やむなく二〇二一年に開催延期となった日本聖公会人権セミナーは先月八日、九日に全プログラムをオンラインで実施する形で無事に終了しました。合計四四名の参加(画面向こうに複数の参加者もあつたため約五〇名)を得て、エベコロベツ自給のむらを発信地としてセミナーを開始。新千歳―幌延間の約五時間の旅を一〇分のビデオを見て講演が開始されました。

プログラムのテーマは「道北における人権問題」と題し、幌延に誘致された深地層研究センターについて、またそこで暮らす人たちの生活を通して、人権について共に考える時間となりました。初日の講演者、久世薫嗣氏は一九八九年に兵庫県から北海道豊富町へ移住して来られ、家族の健康と「いかに生きるべきか」という問いの中の半生につ

いて考え活動して来られました。一九八〇年から続く「幌延問題」と呼ばれる原子力研究施設誘致・開発政策についての抗議運動、人口減少が続く地域で、自分たちの生きる場所を守るために歩んだ道のりを聞く貴重な機会となりました。主宰されている「エベコロベツ自給のむら」は、チェルノブイリ事故で被曝した現地の子どもの達の保養地として受け入れていた経験を生かして、二〇一六年から始まりました。今もコロナ禍の制限の中、東日本大震災被災者の子どもの達を自立、転地療養の保養目的で受け入れていきます。都会の便利な生活から離れ、限られた資源、しかし限りなく広がる自然と向き合う中での共同生活を通して、子ども達が自分で考え、自分たちで話し合っつて日々の生き方を決める力を身につける場所としてこれからも用いられることを祈らずにはいられません。そのような場所の側に、

放射性廃棄物研究施設がある現実、施設を受け入れなければ生き残れない小さな町の現実を学びました。二日目は、朝の祈りから始まり幌延深地層研究センター「ゆめ地創館」について学びました。施設の提示する安全性、必要性について学び、その後、帯広聖公会信徒の尾関敏明兄より北海道の歴史に残る人権問題を含めて、幌延の研究所で具体的に何が研究されているのかについて学びました。

原子力開発、発電所施設の保証する管理状況や安全性について、私たちはすでに東海村、福島での震災後の惨状から十分にその不確定さ、国による対応のずさんさを、現在進行形の問題として目撃してきました。そして今回テーマとなった放射性廃棄物の処理についての研究が幌延町で行われることとなった経緯と現地の人たちの営みを知ること、目に見えない場所で行われている施設誘致地域への「構造的暴力」について改めて考える時がきていることを感じました。寿都町、神恵内村での現状はこれに並行する

ベレス のぞみ(スペイン)

こととして短く語られたが、北海道に住む私たち全員にとつてあらゆる側面から自分ごととして考えていくべき課題であり、今後も注視していきたいと感じています。

最終日のみ言葉の礼拝では植松誠主教より、日本における原子力開発の歴史が残してきた負の遺産について、日本聖公会の出した世界的にも前衛的な明確に反対の立場を取る声明が出されていることをあらためて確認いただきました。そして、「使いたい放題に使うことを止めることは

分け合うことにもつながること」「便利ということから少し離れて、一人一人がほんの少しの不便さを選択すること」という私たち自身の日々の選択が将来の北海道、世界の姿を創るのだということ、厳しくも暖かい眼差しで語ってくださったことが印象に残っています。資源と自然、私たちが未来へ残すべき遺産は何であるかを見つめ直し、今回のセミナーにとどまらず、北海道における人権、平和について共に担っていきたいと願っております。

## 公 示

日本聖公会北海道教区第81(定期)教区会を下記のように招集します。

救主降生2021年10月1日

日本聖公会北海道教区  
教区会議長  
主教 ナタナエル 植松 誠

記

日 時 2021年11月22日(月)午後7時～  
23日(火・祝)午後3時まで  
場 所 日本聖公会北海道教区主教座聖堂  
(札幌キリスト教会)  
札幌市北区北8条西6丁目2-18

なお、本教区会書記及び教区会会計を次のように任命します。

教区会書記	司 祭	ノ ア	上平 更
	聖職候補	エリサベト	三浦 千晴
	教区会会計	オーガスチン	橋本 知樹
	財政部長		



▽岩見沢聖十字教会

九月、連日の秋空が広がる。そのような中、ホレンコにて植松誠主教様のテレフォンとラジオメッセージに耳を傾ける。

八月の「福音と私」に園長でもある菊地和子姉の証しが掲載。信仰体験談に職員も恵まれる。そして、主様からのお礼の葉書に姉妹は感動。春から空知管内栗山町の石川さんご夫妻が礼拝に出席。日本基督教団出身で、初めての聖公会。奏楽や聖餐式の恵みに与るのは楽しみのようです。以前から幼稚園の事も知っていたようで、園庭での様子を見ていたとの事です。

▽旭川聖マルコ教会

先月八月二十九日、二年ぶり

に道北四教会合同礼拝が、稚内聖公会で開かれました。旭川から現地へ八名、マルコ教会ではオンラインで一名の参加。九月八、九日は日本聖公会人権セミナーもオンラインで実施され、マルコ教会からは七名の参加でした。

一二日は、永谷管理牧師による臨時堅信受領者総会が開かれ、稚内聖公会との教会合併を決議し、併せて新設教会の教会委員選挙を決議しました。

頌栄保育園では、近隣公園でどんぐり拾い、一〇月二日の運動会の練習開始と、みんな元気いっぱいです。

▽釧路聖パウロ教会

▽厚岸聖オーガスチン教会

九月一二日、聖霊降臨後第一六主日。礼拝後に二〇二一年度臨時堅信受領者総会が開催されました。

書記から出席者・委任状を合わせて二分の一以上の出席が報告され、臨時総会は成立。議案の討議に入りました。

議案は二つ。

○一号議案「二〇二二年一

月二四日付けで厚岸オーガスチン教会と合併し、新教会名を『釧路聖パウロ教会』とする。新設教会の教会委員は選挙によらず、二〇二〇年一二月の釧路聖パウロ教会の選挙結果に基づいて二〇二一年度末までを任期とする」件。

○二号議案「教区内で合併が決議された場合、教区に『厚岸聖オーガスチン教会』伝道所」設立認可を求める」件。長年の懸案でしたが、両議案とも満場一致で可決されました。

懸案は頌栄保育園、パウロ教会の建て替え問題など多々ありますが、これで一歩進んだこととなります。

感染の収束が見えない中、吉野司祭を中心に歩を進めたい。信徒一同の願いです。

▽小樽聖公会

九月一二日(日)は急遽、植松主教様が主日礼拝の司式とお説教をしてくださることになりました。主様のご退任までの間、一緒に礼拝できる限られた機会が与えられたこと

に一同感謝しています。

ここ数ヶ月、近所にお住まいの方が月に二〜三度主日礼拝に来てくださっています。少しづつ挨拶や会話も増えて、自然な交わりが続けられています。

教会前の小さな庭には今限り白と赤のダリアがきれいに咲いています。庭とお花へのご奉仕にも感謝。

▽稚内聖公会

九月九日(木)、教会を会場として、「日本聖公会人権セミナー」がオンラインで開催されました。講演プログラムとみ言葉の礼拝が行われ、教会はまるで小さなスタジオのようでした。実行委員の皆さまに感謝。

一日(土)は永谷司祭による聖餐式。礼拝後には「臨時堅信受領者総会」が開催され、教会を教区の伝道所とするための旭川聖マルコ教会との合併を決議いたしました。

これからも稚内の地での福音宣教の器として豊かに用いられますように聖霊の導きと照らしを祈り続けます。

▽帯広聖公会

九月に入り、十勝では畑の収穫作業が始まりました。今年日は日照りで心配しましたが、何とか例年と変わらない恵みが与えられました。

緊急事態宣言でお休みしていた教会も、一九日から再開しました。皆、感染対策をしっかりとして、短縮礼拝。久しぶりに声を合わせ、捧げる感謝と賛美に喜びが溢れます。そんな中でも、ご家族に会えない施設入所の方、療養中の方のことを思う時、神様からの心の平安と癒しがありますようにと祈らずにはいられません。

▽新冠聖フランシス教会

九月一二日(聖霊降臨後第一六主日)礼拝後、教会の玄関前に「枝についた」枝豆がドッサリと置いてありました。もうご承知の通り、山田家のお嫁さん・行子さんからの贈り物です。みんな喜んで二抱えもある束を車に積み込みました。いつものことながら、感謝です。

二〇日(月)午前、万世の

溝尾さん宅を訪問するも生憎のご不在。帰りに「ゆとりの団地」の奥田さん宅を確認のために訪問。祈りをなし、お土産に、お月見団子<sup>ツキミダマ</sup>をいただき、これまた感謝。

▽札幌キリスト教会

緊急事態宣言の延長に伴い、九月五日の墓地礼拝は、埋葬者のご家族を中心に行われました。長寿会も中止されましたが、婦人会より長寿を祝うメダルをお贈りしています。今年で三回目となる日曜

学校同窓会が開催、リモートで遠隔地の皆様を交えて旧交を温めました。さっぽろレイ

ンボープライド関連企画として、当教会信徒で弁護士の皆様、川洋美さんによる講演会「多様性の中の一致」、虹のはこぶね主催の「祈りの集い」がそれぞれ開催。一〇月より公開の礼拝が一ヶ月振りに再開される見込みです。

▽札幌聖ミカエル教会

暑かった夏も終わりようやく涼しさが到来しました。一〇月一〇日に行われる宣教七〇周年記念礼拝に向けて、

教会内外の清掃、整備を行いました。七月にタンザニアに戻られた雨宮春子さんは、その後もJOCsの派遣ワーカーとして元気に活動されています。お祈り下さい。一六日、

敬老・長寿祝福のお祈りを聖餐式の中で行う。今年もコロナ禍を配慮して最低限のお祈りとなりました。主教選挙に向けて、礼拝後に五分間の主教制についてのミニ講座を開催、教区の大きな転換期を迎え、少しでも教会の宣教に対する信徒、教役者の理解が深まることを願いつつ。

▽新札幌聖ニコラス教会

九月一九日まで、緊急事態宣言下の対応策として、各信徒に自宅で礼拝を守ることをお願いしていたが、コロナ禍における出席の判断については今後、最大限に注意を払いつつ各自、各家庭での判断に委ねることに決める。一層、

気を引き締めつつ、失われてきた交わりの機会を取り戻す方法を模索中。九月六日、胆振東部地震から三年目を迎え、各地の被災

地を覚えて祈りを捧げる。

▽苫小牧聖ルカ教会

九月に入り、一日の気温の変化に、戸惑いを感じております。九月一九日、高橋賢司さんの洗礼式が行われました。ご

家族とともに神さまのお恵みがありますように。同日、八月九日に逝去された芥川修旨さんの逝去者記念礼拝が、二六日埋葬式が合同墓地で行われました。多くの働きに、感謝致します。九月二七日、牧師、月形刑務所慰霊式司式に赴く。

九月に行われている聖ルカ

バザーは中止、幼稚園運動会は一〇月一日に延期になりました。コロナ禍、感染予防対策での礼拝、改めて集える事、感謝しております。

▽函館聖ヨハネ教会

九月四日エリサベツ山本孝子姉が天に召されました。今月は、感染対策で聖歌の歌声が信徒それぞれの心の中だけで響き合いました。我慢の時間が続きます。信徒一人ひとりの協力によってヨハネ教会の

庭は整えられ、見事に咲き揃うバラや孔雀草に思わず足が止まります。札幌キリスト教会で行われている外国人留学生のための金曜ランチ、当教会からも応援実施中。

▽平取聖公会

当欄の執筆担当の井澤敏郎記者が体調を崩され、先月号から引き続き内海司祭が代筆しています。バチラー保育園では八月

一九日(木)に園児の一人にコロナ陽性反応が判明しまし

た。直ちに臨時閉園して二一日(土)に園児を含む関係者の検査を実施しました。幸い他には陽性反応者は無く、まさに「泰山鳴動して鼠一匹」でありました。運動会は今年も「ミニ運動会」となり、九月一三日(月)と一四日(火)は年少と年中さん、一八日(土)には年長さんが頑張りました。

▽有珠聖公会

九月二六日、植松主教授の巡回をいただき、聖餐式が捧げられました。当日は、エルピス熊澤隆史さんと、アイ

リーン熊澤君子さんご夫妻が、堅信の恵みにあずかられました。一〇月一日〜一月二八日までの期間、平取町立二風谷アイヌ文化博物館で開催予定の特別展「英国聖公会宣教師ジョン・バチエラーの足あと―伝道活動とアイヌ文化研究―」の大きなポスターが玄関に張り出されました。

▽留萌キリスト教会

猛暑が終わり待望の雨が降りました。朝晩は涼しくなりましたが、残暑が続きます。緊急事態宣言を受けて、礼拝出席を見合わせる信徒もありました。新型コロナウイルスの終息が速やかに来るようにと願っています。一〇月の主教巡回が予定されている日に、収穫感謝礼拝と、全逝去者を記念する礼拝を行う事にしました。留萌らしいニシンの親子弁当を用意して、集会所を解放する予定です。黙食を意識したひと時になりそうです。貴重な交わ

りの時が守られますように。

#### ▽網走聖ペテロ教会

宣教一三〇周年記念事業の一つである記念植樹のために、九月二日、造園業者に来ていただき、土壌や具体的な場所、木の種類等について検討確認いたしました。一六日の学び会ではマルコ一二章

一三〜一七節から「皇帝のものは皇帝に、神のものは神に」

を分かち合いました。三〇日、宣教記念行事のための打ち合わせ会を持ちました。司祭は

訪問の中で皆様の体調についてお聞き出来たり、家庭祭壇の前でお祈りさせていただけることを感謝しています。

一〇月三日、宣教一三〇周年記念礼拝です。主に感謝。

#### ▽北見聖ヤコブ教会

コロナ禍の体調管理のため全員が揃うことは難しかったのですが、九月五日、皆様揃い、教会委員会を持つことが出来ました。一九日、主教巡回礼拝。礼拝後皆で葡萄の収穫をし、茶菓のお交わりをいたしました。主教様は来春定年退職をされますので、集

まった一七名は皆「もしかして…」と鼻の奥がツンとなり

ました。司祭はY.M.C.A、網走刑務所、紋別幼稚園などに行き、またワクチン接種の二回目も終了しています。先日の葡萄はお隣り様にもおすそ分けさせていただきました。いよいよ秋ですね。

#### ▽室蘭聖マタイ教会

一雨ごとに気温も下がり、肌寒くなったこの頃です。

九月一二日、苦小牧の松井司祭が来られ、聖餐式後、聖書輪読、委員会。司祭より三位一体を表わす「シトラスリボン」を皆でいただく。

二三日、信徒六人集まり、教会内外を掃除したので、すっきりしました。

二六日、植松主教巡回で、三千代夫人、大町司祭が来られ聖餐に与る。三千代夫人は古いオルガンを初めて弾いて

下さり、音が良く教会の宝として大切にしてくださいとのことでした。カトリックの田中姉も来られ、共に祈る。主教様から、ホイヴェルス神父の「最上のわざ」という詩を

一枚ずついただき、感謝と賛美の一日でした。

#### ▽深川聖三一教会

深川あけぼの保育園の礼拝光の子の時間、九月八日、一六日、二九日あり。ここでは「天の神様世界中の子どもをお守りください。病気の子どもをなおしてください。この世界を平和にしてください」と祈ります。二日、同園

第四九回運動会、父兄は参加せず挙行。教会の主日礼拝五日、一二日、自粛し嘆願式のみとす。九日、保育園の職員会議。保育園は政府のコロナ対策PCR検査のモニタリ

ングに指定され、恩恵に浴せております。一五日、道北分区教役者会、管理司祭の精緻な文書確認には頭が下がります。

#### ▽今金インマヌエル教会

九月は一二日と二九日に礼拝を守りました。二九日(水)聖ミカエルおよび諸天使の日、管理牧師の植松主教様による礼拝でした。今金の九月は、まさに収穫期で、今年は晴天に恵まれ、芋や稲、デン

トコーンの収穫作業もトントン拍子ですすみしました。そして名物となっているハロウィンカボチャも、大変大きく育ち、トラクターでないと持ち上げられない物もありました。表情豊かなカボチャ達が教会の前で皆さんを迎えてくれます。

#### ▽紋別聖マリヤ教会

今年の九月は例年よりも雨が少なく、爽やかな秋晴れの中で過ごす日が多い紋別でした。緊急事態宣言が延長された中でも、管理牧師である主教様により聖餐にあずかることができ感謝でした。また一年ぶりに教会の礼拝に参列した姉妹もあり、久しぶりの交わりの時を与えられたことも感謝でした。幼稚園では、園で収穫したジャガイモを使っ

ても団子作りをしました。秋の実りに感謝してみんなで美味しくいただきました。また、寒い冬に向けて体力づくりも頑張っています。主に感謝。

#### ▽聖マーガレット教会

九月一六日(木)スザンナ

塩谷文子さん、ご逝去。一七日、一八日と葬儀。厚岸聖オーガスチン教会出身信徒。聖マーガレット教会において七〇年・八〇年代の日曜学校、婦人会にて奉仕された。塩谷常吉司祭のご伴侶。

二六日(日)ピンセント坂東正敏さん、ご逝去。二七日、二八日と葬儀。五年前、ご伴侶の照子さんと長女の美穂さんの影響で受洗。主日礼拝には欠かさず出席。バザーの奉仕等、喜んで担ってくださり、教会生活を楽しまれた。信仰の友を主のもとに送り、平安を祈る九月でした。

